

種生物学会 News Letter

No. 12

The Society for the Study of Species Biology

種生物学研究編集委員会編集

1994年10月25日発行

第26回種生物学シンポジウム

第26回種生物学シンポジウムは下記の要領で開催されます。

日 時 2月3日（金）～ 5日（日）

場 所 関西地区大学セミナーハウス

2月3日 プレシンポ 館岡亜緒さん－イネ科のバイオシステムティクスへの貢献

2月4日 分子系統学の現状と展望

2月5日 種子散布の生態学

プレシンポ（19時より）

館岡亜緒さん－イネ科のバイオシステムティクスへの貢献

河野 昭一（京都大・理）

第1日目 「分子系統学の現状と展望」

オーガナイザー：渡邊邦秋（神戸大・理）

村上哲明（東京大・理）

遺伝子の塩基配列に基づき分子系統樹を構築し、対象群の系統関係や形質進化を探る研究が大きく展開してきている。しかし、実際に塩基配列を決定し、系統樹を作成してみても、必ずしも期待ほどの情報が得られないこともある。分子系統学が解明しつつある問題や、研究を進める中で直面している問題点などを紹介しながら、今後、分子系統樹の有効利用

には、どのようなことが考えられるかを検討して行きたい。

まず、さまざまな遺伝子を使って分子系統樹を作成した具体例として、葉緑体遺伝子では *rbcL* と *matK* による系統解析を、核遺伝子では *gap* と *adh* による系統解析を紹介していただき、これらをたたき台にして、生データの解析上の問題点や有効性を批判的に議論していただく。次に、分子系統樹を使って、形質進化や種分化率、種絶滅率などを推定する話題を提供していただく予定である。

村上哲明（東大・理）：*rbcL* 遺伝子の系統解析における有効性と問題点

中沢 幸（都立大・牧野標本館）・遠藤 康弘（東大・資料館）：葉緑体遺伝子 *matK* による系統解析

小菅桂子（神戸大・理）：核遺伝子 *gap* による高次分類群の系統解析

傳田哲郎（神戸大・理）：核遺伝子 *adh* による種レベルの系統解析

高畠尚之（遺伝研）：遺伝子の系図と種系統樹（靈長類を中心として）

小池文人（島根大・理）：系統樹に基づく形質進化の最尤推定

三中信宏（農環研）：分子データに基づく系統樹作成－形質進化最節約的推定

巣佐 康（九大・理）：系統樹に基づく種分化率・種絶滅率の推定

第2日目 「種子散布の生態学」

オーガナイザー：岡本素治（自然史博）
湯本貴和（神戸大・理）

Where have all the fruits gone? 樹上に生産されるあの多數の木の実、その行方そして種子の運命について、私たちの知っていることは断片的なものにしか過ぎない。いま、どこまでそれが追跡できているのか、現状を講演していただき、種子散布の生態学の進むべき道を議論する予定である。

岡本素治（大阪市立自然史博）：果実の形態にみる種子散布（実演付）

果実・種子の形態に種子散布がどのように反映しているかを、動物散布以外を中心にして、実演付で紹介する。あわせて、第2日目のシンポジウムへの導入を行なう。

福井晶子（北大・低温研）：ヒヨドリによる種子散布

日本の代表的な果実食鳥であるヒヨドリについて、採食・排糞（体内滞留時間）、行動様式、排出された種子の状態などを通じ、種子散布者としての特性を述べる。

中静透・田中浩（森林総研・群落）：種子散布のフィットネスをいかに評価するか

種子を遠くへ運ぶということのメリットを、種子の散布後生存率や実生の発生率・生存率との関係で評価することが重要である。種子散布によってSafe siteへの到達可能性が増大するのか、Janzen-Connell モデルは現実に存在するのかなどについて、実際のデータをもとに検証する。

箕口秀夫（新潟県林試）：ドングリの行方 —ノネズミによる種子散布の特性

“ドングリころころどんぶりこ、ネズミが出てきて今日は”ノネズミに見つけられたドングリはどのような運命をたどるのか。seed-dispersing predatorによる隠匿貯蔵型散布は、植物にとって常に捕食のリスクを背負ったあやふやな散布方法といえる。このあやふやな関係の実態に、ノネズミによる堅果類散布の特性からアプローチする。

コメント：湯本貴和（神戸大・理）

参加申込先： 5ページの申込書を郵送またはFAXで下記へ届けてください。

〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23

大阪市立自然史博物館

種生物学シンポジウム準備委員会

FAX 06-697-6225

参加費等の合計額は申込と同時に下記の郵便振替口座にお振込ください。

振替口座 00930-3-2784

口座名義 種生物学シンポジウム

問合わせは

〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23

大阪市立自然史博物館

岡本素治 または 藤井伸二

（種生物学シンポジウム準備委員会）

TEL 06-697-6221 FAX 06-697-6225

までお願いします。

学会事務局よりのお知らせ 役員改選について

11月に1995-96年度の会長・副会長・幹事の選挙を予定しております。

会費納入のお願い

会費納入がお済みでない方は郵便振替01030-3-21704 種生物学会あてに納入して下さい。

入退会変更届について

入退会、住所所属変更などは種生物学会京都事務局（郵便番号601-01 京都市左京区北白川追分町京都大学理学部植物学教室内）へご連絡下さい。

学会連絡会および連合参加について

植物分類学・地理学関連学会連絡会（仮称）、および自然史学会連合に参加することになりました。

雑誌交換

韓国植物分類学会と雑誌バックナンバー交換を行いました。現在、韓国植物分類学会の会誌は鹿児島事務局で保管しています。韓国産植物の分類、分布、形態に関する論文（多くはハングル+英文要旨）が掲載されています。

小林央往会員の死去を悼む

種生物学会がまだ研究会だった頃から活動的な会員であり、研究会から学

会への発展にも大きな寄与をなされた小林央住さん（山口大学農学部、以前は京都大学農学部、47才）が、アフリカ現地調査で感染されたマラリヤの発病によって9月22日に突然に死去されました。何度もマラリヤをやっている私には、マラリヤで死亡する、それも医療システムが整備されている日本でこのような悲しいことがおこるなんて言うのは信じられないおもいです。小林さんには小学校5年生の敦敬君、2年生の真裕子さん、3才の真理子さんの3名の小さいお子さんがおられます。現在、関係者で「小林央住さん遺児奨学基金」の計画が進められています。そのうち種生物学会会員の皆さん方にも連絡がいくとおもいますが、よろしくご協力をお願いいたします。

（堀田 満）

シンポジウム・講演会

第9回「大学と科学」公開シンポジウム

1995年1月28、29日に開催されます。本誌6ページを参照ください。

個体群生態学会シンポジウムのご案内

個体群生態学会のシンポジウムが1995年9月30日-10月2日、三重県三重郡菰野町湯の山「希望荘」で開催されます。申込方法などについては後日お知らせします。

国際シンポジウムのご案内

1996年7月25日-28日、中国昆明植物研究所で国際シンポジウムが開催されます。詳しくはProf. Wu Sugong, Secretary General, International Symposium on Floristic

Diversity and Characteristics of East Asia, Kunming Institute of Botany, Chinese Academy of Science, Heilongtan, Kunming, Yunnan, The People's Republic of Chinaへお問い合わせ下さい。

第26回種生物学シンポジウムのご案内

日 1996年2月3日から2月5日

場所 神戸市北区道場町生野字ロクゴ

関西地区大学セミナーハウス

Tel 078-985-4391

Fax 078-985-7219

詳細はニュースレター1ページ参照

参加費用：（）内は学生（院生）料金

参加費

12月17日までに申込 5000円（3000円）

12月18日以後申込 6000円（3500円）

宿泊費など

2月3日 2月4日 2月5日

宿泊費	4900円 (3400円)	4900円 (3400円)	
-----	------------------	------------------	--

朝食	450円	450円	
----	------	------	--

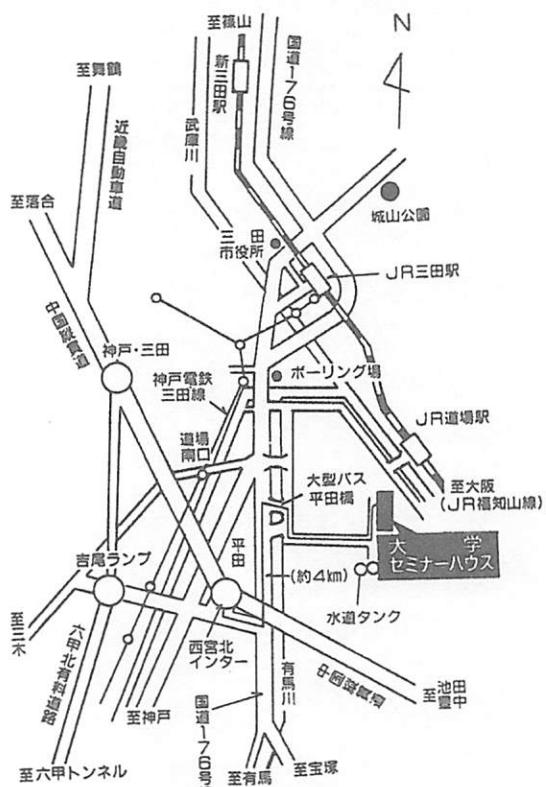
昼食	650円	650円	
----	------	------	--

夕食	1000円	5000円（懇親会）	
----	-------	------------	--

夕食は PM 6:00 ~ PM 7:00。

宿泊棟は別棟コテージ式のため、洗面具、パジャマ、雨傘、サンダルなどを持ってこられると便利です。

交通手段 右図参照



車利用の場合

中国自動車道西宮北インターから車でR176を北へ約5分(約4km)

○京都から名神経由で約1時間30分

○大阪から高速道路経由で約1時間

○岡山から約2時間30分

交通機関利用の場合

(1) JR福知山線(宝塚線)三田駅下車、神戸電鉄有馬温泉行きバスに乗車 平田バス停下車、東へ徒歩約15分、または三田駅よりタクシーで約15分。

(2) 神戸電鉄有馬温泉駅下車、神戸電鉄バス三田行きに乗車、平田バス停にて下車、東へ徒歩約15分、または有馬温泉駅からタクシーで約15分。

(3) JR福知山線(宝塚線)道場駅下車、徒歩約30分(約2km)

*但しハイキングコースの山道につき夜間及び雨天の場合は不可

財団法人 関西地区大学セミナーハウス

〒651-15 神戸市北区道場町生野字ロクゴ318の2

T E L (078)985-4391

F A X (078)985-7219

第26回種生物学シンポジウム申込書

氏名 _____ 性別 男 ___ 女 ___

所属 _____

連絡先住所 _____

TEL _____ FAX _____

参加費 12月17日まで 一般 5,000円 ___ 学生 3,000円 ___
12月18日以降 一般 6,000円 ___ 学生 3,500円 ___

宿泊費他 2月3日 2月4日 2月5日

一般 4,900円 ___ 4,900円 ___

学生 3,400円 ___ 3,400円 ___

朝食 450円 ___ 450円 ___

昼食 650円 ___ 650円 ___

夕食 1,000円 ___ 5,000円 ___

(懇親会)

合計 _____ 円

参加申込先： 下記まで郵送またはFAXでお願いします。

〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館

種生物学シンポジウム準備委員会

FAX 06-697-6225

参加費等の合計額は申込と同時に下記の郵便振替口座にお振り込みください。

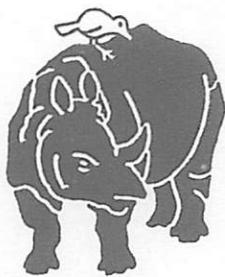
振替口座 00930-3-2784

口座名義 種生物学シンポジウム

文部省後援：第9回「大学と科学」公開シンポジウム開催

地球共生系

— 多様な生物の共存する仕組み —



このシンポジウムは、わが国の大学等の研究者によって達成された最新の独創的かつ先端的な研究成果を、学界だけではなく広く一般の方々に公開・発表し、理解していただくことを目的としております。
多數ご参加ください。

日 時：平成7年1月28日（土）～29日（日）

場 所：有楽町朝日ホール

参加費：無料／聴講希望者が多數の場合には抽選となります。

講演内容

第1日目：平成7年1月28日（土）- 10:30～17:45-

地球共生系とはなにか？ 京都大学 川那部浩哉

小さな共生系の世界：その成り立ちを探る

●細胞内共生の起源と進化：分子生物学からのアプローチ 東京大学 石川 統

●シロアリと腸内微生物との共生 山口大学 山岡 郁雄

●寄生から共生へ：垂直感染と廃物利用 佐賀医科大学 山村 則男

生物の複雑な相互作用を浮き彫りにする：実験的アプローチ

●種間関係を多様化する間接作用：ボディーガードを雇う植物 京都大学 高林 純示

●マメ・マメゾウムシ・寄生蜂系：その種間相互作用と安定性 筑波大学 藤井 宏一

●多種共存システムを造る：水系マイクロコスモス 愛媛大学 川端善一郎

●植物ウイルスの宿主への適応戦略 京都大学 古沢 巍

第2日目：平成7年1月29日（日）- 10:30～17:00-

野外生物群集を丸ごと扱う：多種共存の仕組み

●熱帯雨林：樹冠部における共進化 京都大学 井上 民二

●サンゴ礁における多種共存の筋道 東北大学 西平 守孝

●昆虫の小宇宙と化学情報物質連鎖 京都工芸繊維大学 山岡 亮平

●大絶滅と大進化：生物多様性の古生物学からのアプローチ 東北大学 箕浦 幸治

パネルディスカッション：再び「地球共生系とは？」

まとめと展望

●多様性の生態学：その構築をめざして 京都大学 東 正彦

●本講演会のまとめと展望 京都大学 川那部浩哉

申込方法：はがきに ①住所・郵便番号・電話番号（自宅か勤務先かを明記） ②氏名・年齢・性別
③職業（勤務先・役職名） ④セッション名『地球共生系』 ⑥参加日時をご記入のうえ
下記宛にご送付ください。

●申込み・お問合せ先

循アドスリー内『地球共生系』事務局 〒105 東京都港区虎ノ門3-18-6 朝日虎ノ門ビル513号

TEL 03-3459-0006 FAX 03-3459-6894

（事務局宛にFAXでお申込みいただいても結構です）